

粕谷和夫の観察日記より。ダイサギとアオサギの揃い踏みです。2月20日、八王子・浅川の萩原橋下。八王子第九小学校4年生の野鳥観察支援の一コマです。両種がこんなに接近して魚を捕っているのは珍しいです。水面に映った影が印象的でした。

紅葉台



新聞

第232号
2026年
5月2日
発行人：関谷 孝

あんこは人生そのもの

にしいあんこ 日本あんこ協会会長

あんこを炊くことが好きだ。小豆をショキシヨキと洗い、下ゆでし、渋切りし、またゆでし、柔らかくなったらたっぷりの砂糖を入れて練る。忙殺される日々の中で心を整える。瞑想のような時間だ。ふと、あんこを炊く工程は人生そのものだと言う考えに至った。

赤子のように小さい豆がざるの中で生き生きと遊ばされ、ある日、煮えたぎる社会と言う名の熱湯に放り出される。学生時代から一変する、社会人生活の余りの変容に1度は挫折を味わい、心身ともにへばりついてしまった渋を洗い流すため、自分探しの旅に出る。

小豆は、再起を誓い、再び鍋の中に舞い戻る。突っ張って堅かったあの頃とは違う。同じ鍋の中で、ときにはぶつかり、切磋琢磨し合う小豆たちは、次第に柔らかな煮豆と変貌を遂げ、最後には純白のパートナー、砂糖と一緒にになる。幸せを掴んだ小豆は練りに練られ甘いあんことなり、今度は人々に幸せをもたらすかけがえのない存在となるのである。

粕谷和夫の観察日記



仲睦まじいキジバトです。2月16日、横浜線八王子みなみ野駅近くの電線に止まっていました。近くにはイソヒヨドリもいましたが、こちらはオスが1羽だけでした。キジバトは昔はヤマバトと言われていましたが、今では一年中市街地にもいて「マチバト化」しました。オスメスの見分けは難しいですが、「デデッポッポー」と鳴く方がオスです。



2月18日小田原市の曾我梅林に行ってみました。御殿場線下曾我駅から梅林までの間の田んぼでモズ、ツグミ、ジョウビタキ、コサギ、ハクセキレイ、カワラヒワに出合いました。梅林ではメジロが多数、梅の花から蜜を吸っていました。帰路、ヤドリギの大きな塊を2カ所で見つけ、レンジャクを期待しましたが、気配はありませんでした。

2月18日、曾我梅林で昼飯を食べていると、梅の花の下で外来種のオオイヌノフグリがうすい青色の花を咲かせていました。その中にピンク色の花が1輪目に入りました。もしかしたら在来種で希少なイヌノフグリに出会えたかと写真を撮りました。しかし、冷静に考えてみるとイヌノフグリ花はもっと小さい筈なので、一時のぬか喜びでした。



中央線大月駅から富士急の十日市場駅で下車すると富士山の恵みで、こんこんと湧水が出ている場所があります。その湧水を利用した田んぼで「水かけ菜」が栽培されています(写真上)。もしかしたらこの田んぼで「タシギ」が見られるかもと期待して、2月24日に田んぼの周りを散策しました。タシギには出会えませんでした。とても綺麗なハクセキレイ



が出迎えてくれました(写真下) 水かけ菜が道の駅で販売されていました。1束200円でした。「おひたし」と「油炒め」で食べてみました。柔らかすぎもせず、固すぎもせず、とても美味しかったです。地元の人は雑煮や味噌汁の具に使っているそうです。



2月22日は、ねこにゃんにゃんの日でした^_^



横浜市営地下鉄ブルーラインに「踊り場」という駅があります。名前の通り夜な夜な猫が集まって踊るといふ伝説があります。222の猫の日にちなんで「猫まつり」がありましたので紹介します。踊り場のデイクアプラザの会場で、多分1回目の踊り場ネコ祭りが開催されました。主催の方が静岡県の函南市からネコ祭りの関係者を呼んだそうです。猫に仮装した方々が、猫の踊り場にちなんで、神奈川県のお話をスライドショー仕立ての紙芝居で、上演してくださいました。楽しい紙芝居でした。デイクアプラザ内の喫茶コーナーでは！入所者の方が織った布を使ってボランティアの方が縫った猫のぬいぐるみや、バッグ、小銭入れなども販売していました。クラウドファンディングで、お洞など綺麗にするプロジェクトも開始されたようです。踊り場駅構内は、猫の足跡



、猫の目の壁画、猫のスタンドグラスがあります。二月中は、猫切符も販売していません。猫のシルエットが黄色で印字されています。その他、壁面に猫の踊り場伝説のポスターや、猫の写真が飾られています！ぜひ、猫好きな方は来年にお越しください！私の愛ネコのなむちゃん。娘が、気に入っているメインクーン！9キロ。大きな猫です！今、6歳です！（渡辺美江さんより）



紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。